

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	101	科目名	化学物質総合評価学概論1		サブネーム	化学物質リスク評価の基礎1		
連携機関名	(財)化学物質評価研究機構	レベル	基礎		講義枠	土曜日	講義時間	14:00~15:30、15:50~17:20
科目概要	化学物質及び化学物質を含む製品について、その生産、輸送、利用及び廃棄に至るまでの過程におけるリスク評価手法の全般を理解することを目的とし、化学物質の環境中挙動を知るための試験手法の概要を紹介するとともに、環境中生物に対する化学物質の有害性を確認するための手法の概要を解説する。 (化学物質総合評価学概論2 へ続く)							

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1	はじめに	講義目的、講義概要、評価方法、学習の補助資料などに関するガイダンスを行う。化学物質の総合評価の必要性及びその国際的動向について解説する。	4月14日	共通講義棟 1号館 204教室	高月峰夫	(財)化学物質評価研究機構
リスク評価の概要	2	リスク評価の基礎(1)	リスク評価書の実例を紹介し、暴露評価を実施する手順の概要について解説する。	4月14日		石井聡子	
	3	リスク評価の基礎(2)	リスク評価書の実例を紹介し、環境中生物に対する有害性評価およびリスク評価を実施する手順の概要について解説する。	4月21日			
	4	リスク評価の基礎(3)	リスク評価書の実例を紹介し、ヒトの健康に対する有害性評価およびリスク評価を実施する手順の概要について解説する。	4月21日			
リスク評価の概要	5	ダイオキシンのリスク評価	ダイオキシンを例にリスク評価の現状を紹介する。	4月28日		広瀬 明彦	国立医薬品食品衛生研究所
暴露評価	6	化学物質の環境残留性	化学物質審査規制法における生分解性の位置づけ及び生分解性試験法の概要を紹介する。	4月28日		高月峰夫	(財)化学物質評価研究機構
	7	化学物質の生物濃縮性	化学物質審査規制法における生物濃縮性の位置づけを解説するとともに、食物連鎖における生物濃縮性の位置づけを説明する。また、濃縮度試験法の概略を説明するとともに、生物濃縮性を予測するための構造活性相関手法について解説する。	5月12日			
	8	化学物質の環境中への排出	我々の生活における化学物質とのかかわりと環境中への排出過程とについて解説する。	5月12日			
	9	化学物質の環境中分布予測	化学物質の環境中における挙動を支配する要因を説明するとともに、環境分布予測のモデルについて概要を解説する。	5月19日			
環境中生物への影響評価	10	水生生物に対する毒性試験(1)	藻類、甲殻類、魚類を用いた毒性試験の概要を解説する。	5月19日		高月峰夫	(財)化学物質評価研究機構
	11	水生生物に対する毒性試験(2)	試験結果の分類法に関する国際的動向について解説する。	5月26日			
	12	陸生生物に対する毒性試験	陸生生物を用いた毒性試験方法の概要を説明するとともに、リスク評価における位置づけを解説する。	5月26日			
	13	構造活性相関の利用	構造活性相関手法の原理を説明し、生態影響評価における構造活性相関手法の利用例を解説する。また、構造活性相関手法の利用に関する国際的動向を解説する。	6月2日			
	14	室内試験結果から生態影響への外挿	生態系とは何か、また、生態系への影響とは何かを説明し、初期段階で行われる生態毒性評価の方法である室内試験についての概要を説明する。さらに、個体を用いた試験結果から生態系の影響を外挿する場合の問題点について解説する。	6月2日			
	15	内分泌かく乱作用が疑われる物質についての試験	化学物質の内分泌かく乱作用についての概要を説明し、環境中生物に対する内分泌かく乱物質作用の試験法開発状況について解説する。	6月9日			